

## 現場即応型貝毒検出技術と安全な貝毒モニタリング体制の開発

### 1 中核機関・研究総括者

(独)水産総合研究センター東北区水産研究所  
鈴木 敏之

### 2 研究期間

2003～2006年度(4年間)

### 3 研究目的

貝毒の発生海域は拡大傾向にある。このため、生産現場で二枚貝の下痢性貝毒及び麻痺性貝毒の主要毒成分を簡便かつ迅速に測定できる簡易測定キットを開発するとともに、高精度な分析手法を用いて生産現場で毒化した二枚貝の毒組成等のバックグラウンドデータを蓄積し、簡易測定キットを利用したより安全で効果的な貝毒モニタリング体制を開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

下痢性貝毒スクリーニング及び規制のための簡易測定法の開発((財)日本食品分析センター)

下痢性貝毒の簡便・迅速な簡易測定キットを開発する。

麻痺性貝毒スクリーニング及び規制のための簡易測定法の開発(大阪府立公衆衛生研究所)

麻痺性貝毒の簡便・迅速な簡易測定キットを開発する。

生息環境に基づく二枚貝等の毒化予知技術の高度化(北里大学、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所・中央水産研究所)

本研究で開発した簡易測定キット等を利用し、二枚貝等の毒化予知技術の高度化を図る。

より安全で効果的な貝毒モニタリング体制の開発((独)水産総合研究センター東北区水産研究、東北大学、(財)日本冷凍食品検査協会、(財)日本食品分析センター、大阪府立公衆衛生研究所)

簡易測定キット等を応用したより安全で効果的な貝毒モニタリング体制を開発する。

### 5 目標とする成果

下痢性貝毒及び麻痺性貝毒に対する簡易測定キットを開発することにより貝毒によるリスクの低減が図られる。当面、キットを用いた生産現場でのスクリーニングの導入により、より安全な二枚貝の供給と生産者及び関連試験研究機関等における貝毒モニタリングの負担軽減が期待され、将来的には食品の安全性のチェックや国内公定法を見直す際の基礎的なデータを得ることが期待される。